

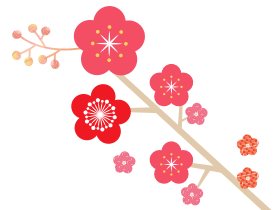


新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

旧年中も格別のお引き立てを賜り有難うございました。ね 

弊社MUSOジャーナルも今回で32号を迎えました。本年も国内外のオーガニック事情や社内外の活動に関する情報をお伝えする事を通し、取引先様や販売店様に役立つような業界情報を提供していきたいと思っておりますので、引き続きMUSOジャーナルのご購読、何卒よろしくお願い致します。



持続可能な開発目標SDG's実現へ向けて

皆さんは「SDG's」という言葉を聞いたことはありますか？SDG'sとは、2015年、国連サミットで可決された **Sustainable Development Goals** の頭文字をとった言葉です。2030年までの15年間にわたって、**未来の子供たちにどういう世界を実現したいか**をまとめ、国際社会全体の共通目標として採択された「持続可能な開発目標」のことです。国連に加盟する196か国すべての国が、達成に向け取り組むべき共通目標で、実現したい世界の実現を目指します。貧困、飢餓、健康、教育、ジェンダー、エネルギー、不平等、環境、パートナーシップ等々「17の目標ゴール」「169のターゲット」「232の指標」の改善に向け、国、政府、企業、個人それぞれが持続可能な社会の実現を目指す事にスコープが当てられています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



むそう商事における社会貢献活動

弊社は、2009年より、事業活動で得た収益の一部を、毎年直接ビジネスに関係のない社外団体への寄付・募金活動を継続しています。寄付する先は、「日本赤十字社」・「あしなが育英会」・「UNICEF」・「桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金」の4つです。これら団体の主な活動は、開発途上国や災害発生地などにおける「子供たちの健康」「人命救助や復興支援」「平等に教育を受ける権利」を維持する活動を行っており、企業として得た利益の一部を支出することでこれら団体の活動推進の一助となり社会貢献活動の促進になると考えています。むそう商事では、これら社会貢献団体への寄付などを通じ、自社だけでなく、社会がよりよくなる支援活動を続けていくことも重要な企業の役割と考えてこれまで実施し続けています。

日本赤十字社 (2008年より)	あしなが育英会 (2009年より)	UNICEF (2009年より)	桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金 (2011年より)
日本赤十字社は、紛争・災害・病気などで苦しむ世界の人々を救助、救済、復興のためのあらゆる支援をしています。	病気、災害、自死などで親を亡くした子どもたちが成人まで教育を受ける環境を物心両面で支える民間非営利団体です。	UNICEFは、世界中の子どもたちの命と健康を守るために活動し、すべての子どもが健康に生きる権利を支援する国連機関です。	桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金は、東日本大震災によって両親や兄弟姉妹たち、祖父母などの保護者を失った遺児・孤児を支援しています。

SDG'sを通じて企業の存在意義を問い直す

SDG'sは、2030年までの世界の「あるべき姿(目標)」を示しています。今、私たちの世代や企業にできることの延長線上に将来を予測するのではなく、将来の「求めるべき社会の姿」から俯瞰して「私たちが今何をすべきか」を考える思考が必要といわれています。SDG'sが示す将来の世界とは何か、そこからバックキャストして企業や私達一人一人が描く目標達成のために行うべき活動は何かを考えます。単に既存事業にSDG'sを推進するラベルを貼るというような行為ではなく、**SDG'sという「未来志向」のツールを活用して、企業の存在価値や社会的役割をより一層磨き、確実な社会活動にすることに本当の意義があるといわれています。**SDG'sに関わる取り組みは、企業や社会にとって一過性のブームであってはならないと感じます。それは、将来社会において、私達「企業」が打ち出すサービスが目標達成に繋がるのかの意義を問い直し続ける試みです。

自然食品、オーガニック業界のSDG'sキーワード



SDG'sにおける自然食業界の役割

2015年国連サミット可決後、いたるところでSDG's推進を掲げる声が多くなってきました。考えてみると、私達の自然食品業界は、農業、製造、流通、小売に至る全てのサプライチェーンにおいて、食分野から様々な社会課題を捉えてこれまで取り組んできた業界ではないでしょうか。自然食品や有機農業を広く普及させる私たちの食品業界にとって、SDG'sとは、決して舶来の未知のものではなく、各社が掲げる企業理念や市場におくりだしている商品、また、原材料背景、販売のあり方まで、既にSDG'sの掲げる項目に密接に繋がっている社会性の高い事業活動であることをこの機会に再度認識すべきと考えています。今、どの産業も大手企業を中心に、SDG'sと自社事業の関連性を必死になって模索しPRしています。大手企業が発信する取組は社会的なインパクトはありますが、このSDG's目標の達成においては、私達中小企業でも、各社の従業員が、自分達の行っている事業やサービスがSDG'sの目標とどう繋がっているのかを再度認識することから始めることは大事なことだと思っています。

SDG'sが掲げる持続可能な社会実現のための崇高な目標も壮大な戦略も、それを実現するのは、企業における私達のアクションの結果です。今、全ての社会がSDG'sをきっかけに、企業・団体のあり方や、未来のあり方を考え始めています。私たち自然食品業界に集う企業も、SDG'sへの取り組みを前向きに受け取り、食品業界から未来に繋がるアクションをしてみたいかと思いますが、SDG'sを新しいことへの追加投資、コスト、時間のかかる事ととらえず、自然食品業界が再度見直され大きく飛躍するビジネスチャンスと捉え皆さまで共に取り組んでまいりたいと思います。

SDG'sの推進において重要なこと

POINT 1

目標とする取組項目に企業が2030年に実現できるゴール目標を具体的に描くこと

POINT 2

SDG'sへの取組促進が、企業の新規事業開発や新商品開発に繋がること

POINT 3

SDG'sにおける取組が企業の信用度やブランド認知向上に繋がること



年頭にあたり、弊社むそう商事が行っている社会貢献活動の一部も共有させていただきながら、SDG'sに関して、私達、自然食品、オーガニック食品事業者がどの様に取り組んでいくべきかを記述しました。皆様それぞれのテーマ実現を目指していく考えのきっかけになれば幸いです。

自然食品、オーガニック食品の業界で事業活動を行う企業の皆様と共にSDG'sのテーマ実現へ向けてさらに盛り上げていきたいと思ひます。

また、本年は、海外の販売店舗や事業者パートナーがどのような具体的な取り組みで、これらSDG'sやCSR活動を行っているのかなど、皆様に参考になるような情報やトピックも本ジャーナルを通じてご報告していきたいと思ひます。本年もスタッフ一同宜しくお願い申し上げます。

代表取締役 社長 岡田 征剛

《お見舞い》

昨年発生しました台風15号、19号により甚大な被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。一刻も早い復旧をお祈りいたします。

連載スタート

増野かあちゃんの日々

vol.2



あけましておめでとうございます 2020



皆さん新年号の【令和】にはもう慣れましたか？4回目の年女も通過！…年々時間は加速中です。ただし、時間は全ての人に平等…らしいので、やるべき事が山盛りの毎日も、手抜きに磨きをかけ、チャレンジを続けます！

もう5年以上前からになりますが、ご縁で、島根県飯南町での春の田植え・秋の稲刈り・芋ほり・栗拾い・柿取りなどを続けています。今回も大型バスを貸し切り、総勢30人近くで参加しました。「よう帰ったな。」と迎えてもらうと故郷のように感じます。高齢化・過疎化が進む農家の現実を見るのはとても辛いのですが、お米にまつわる様々な体験を、稲作の国の日本人である以上、子供達にも絶対に【今】伝えるべきだという思いから続けています。

足に絡む重たい泥…その感触の下は硬い地面で、おぼつかない足裏を踏み張り繰り返し植え続ける。季節が廻り、鎌を使って収穫したら、ロープワークを駆使し、ハゼを立てて乾燥。機械の乾燥とはお米の風味が全く違います。

4才から参加している娘の鎌裁きや

田植え時の足さばきの軽さは、地元のおじいちゃん達のお墨付きで、「嫁に来んかあ？」と毎年お誘いがかかる程です。飯南町への留学は毎年人気上昇中！子供時代を受験勉強で奪われたまま社会に出るより、青春時代を田舎町で過ごすのもいいかもしれませんね。

最近、SDG's だなんだと話題ですが、稲刈後の茎の部分【わら】は様々な方法で再利用され、ゴミは出ません。縄文時代には戻れませんが、稲作は究極のSDG's ではないでしょうか？着るもの・生活用品の殆どが【わら】で、コンポストابلです。

ホワホワのわらのから“穂”を拾って帰り、「白米は水で腐るけど、玄米は芽が出て根も張るよ！」と娘に話すと、やってみたい！と言うので、玄米をお水に浸すこと1週間。きれいな真っ白根っこが

ボーボー伸びて、緑色の芽がニョキニョキ。「え〜！ほんとに？あの一粒からこんなに出るの？玄米ってすごいね〜。」この後も根っこは腐らず伸び続け、抜けなくなってしまいました。



むそう商事での仕事は私の食生活の基本です。残留農薬の子供への影響・環境破壊・遺伝子組換えの裏側、増え続けるアレルギー等、知りすぎたと言っても過言ではありません。一方で、それを知らないヒトが多すぎるのも現状です。家族の健康を預かる母親であり、地域や社会にも大きな責任を持つ立場になった今、【伝える】ことは諦めたくありません。田植え稲刈り交流は、同僚の参加の輪も広がっています。【土】と【人】から学ぶ事は非常に多いです。ここで働く以上、それらに触れずして有機・食を語れるでしょうか？冷暖房完備のオフィスからは知れないことがたくさんあります。

人生は選択の連続。【何を食べるか・誰と食べるか・どうやって食べるか？】散らかった家の中を横目に、圧力鍋で有機米を炊きます。熱々ご飯・自家製梅干・九州五島列島の手塩のおにぎりをほおばる時の幸せ…土付きの根菜をタワシで洗い、有機味噌を数種類ブレンドすれば具沢山のお味噌汁の完成です。どんなご馳走よりも立派な夕食じゃないでしょうか。わずか15分の幸せ。それを惜しむほど忙しいといわれる現代人。皆さん、今年は何を選びますか？



INTERVIEW



HAPPY YOGA & EAT LIFE ♥

ヨガだけでなくオーガニックも生活に取り入れており、今回ご縁があつてむそう商事のアンバサダーをお願いすることになった梅澤友里香様に、ヨガ・食生活等、そのライフスタイルについて伺いました。



01 生い立ちを教えてください。

もともと子供の頃から胃弱で典型的な虚弱体質で小学校では朝の朝礼で倒れるタイプの子でした。子供の頃から割と小食だったので『だから体が弱いんだ。』と大人達によく言われていました。

私は消化力がとても弱いので、お肉が体質的に合わず、高校生くらいからあまり食べなくなりました。日本ではベジタリアンというのは一般的にまだ馴染みもなかったのも、私自身もあまりその選択肢はなく『食べれない自分は悪い子』と子供の頃は思っていました。。
今思えば、身体は自分の事(許容範囲)をよく知っていたんだな。と思います。



02 ヨガを始めたのは、何がきっかけだったんですか？



ヨガとの出会いは10代の頃でした。
この頃は身体のメンテナンス目的でした。
以前はダンサー活動をしていて、その時の怪我を理由にメンテナンス目的から、心と身体の繋がりを感じ、丁寧に生きていける【ヨガ】を実感し、より深く勉強し始め、インストラクターになるキッカケとなりました。

ヨガの世界ではベジタリアンはあまり特別な事ではありませんでした。
自分らしく生きられる方法の一つが『ベジタリアン』だと思ったので、
公言し、生活するようになりました。

私の消化力と吸収力ではベジタリアンが特に合うようで、そうしてからの方が筋肉もつきやすくなり、身体も軽く(体重的な問題ではなく)頭の中もクリアになりました。
とにかく自分に合う生き方なんだと思います。
他人と比べないヨガの生活が私をいつも助けてくれます。



03 なぜ、むそう商事の商品を選んで頂けたのですか？

よく行く自然食品屋さんに私の心に『きゅん♡』と響くものが多く、
それが大体むそう商事さんの商品で、
買い物する時も「むそう商事さんの商品なら大丈夫！」
って安心感を持って買い物をしていました！

特にお気に入り
“グリーンピースチップス”や“Taste of Natureのナッツバー”でした♡
アンバサダーのご縁を頂いた後もよく買っていた商品がむそう商事さんの
ものだと知ったものもあり、やっぱり私の『きゅん♡』ポイントを掴んでる。
と再確認しました(笑)



上) Taste of Nature・下) グリーンピースチップス

むそう商事アンバサダー

梅澤 友里香 YURIKA UMEZAWA

profile

ヨガティーチャー

ウェルネスライフアドバイザー

浅井企画 文化人所属

ヨガフェスタ、オーガニックライフTOKYO、神宮スタジアムナイトヨガ等
1000人規模のイベントや厚生労働省主催イベントで講師も担当。

他監修やプログラム開発も行い、各メディアにも多数出演。

ダンサー活動後、怪我を機にヨガの道へ。

『強く美しくしなやかに』

内側から輝く心と身体作りで身体と心に嘘をつかないアーサナを行い、それぞれの身体や体質、心に寄り添い人生そのものである「生きる
ヨガ」を提案。食にも関心が深く、自身もベジタリアンの実践を行い、それぞれの身体や体質、心に寄り添ったヘルシーライフの提案も行う。 <http://yurika-umezawa-yoga.com>  @yurika_umezawa

04 ライフワークにしていること(大切にしていること等)は何ですか？



「自分にとって心地良い事に嘘をつかない。」

消化力と吸収力の話に戻りますが、食べる時には特に『量』を意識します。
自分にとっての適量をしっかりと守る、ということです。
食べ過ぎもその逆も、毒になり得ます。
それに関しては、古くから伝わる『腹八分目』を実感しています。

そして食事以外にもこれは該当すると思っています。

運動のし過ぎ、しなさ過ぎ。
悲し過ぎ、怒り過ぎ、嬉し過ぎ。なんでも度を越えたものはストレスになる可能性があるので、常に心地良い事や丁度良い
ところを探す。そうすると自然と穏やかに自分らしく戻れ、美しさや優しさを感じられます。
健康の基準も人それぞれ。
『自分の範囲に嘘をつかず、健康である事。それだけで人の為になれる。』
と思っています。
まずは自分を整え、それが誰かを助けられるパワーになるかな、と。

05 最後に、何かヨガや食に対しての思い等がありましたら。

食べる事は生きる事。

そして、ヨガも生きる事。ライフスタイルそのものです。

身体が変われば心も変わる・心が変われば発言や考えも変わる。

ヨガはアーサナ(ポーズ) だけではなく。
ですが、大事な項目の一つ。
身体を使うには“食” がとても大切です。「どんな時も笑顔になれる。」・「周りの人もHAPPYになれる。」
ヨガや食を通してそんなライフスタイルを提案出来たらと思っています。

「食や運動」・「身体と心」色々な悩みを持っている人がいるかと思っています。

私自身そうでしたが、みんながそうだから合わせなきゃいけない。
ではなく、それぞれが。みんなが。HAPPYになれる事を選択出来る優しい世界が広がって

HAPPY YOGA & EAT LIFE ♥

